

## 国際規格の動向—国際会議に出席して—

### ISO/TC156(金属及び合金の腐食)WG7(腐食促進試験)韓国・濟州島国際会議

\*長谷川和哉

開催日:2017年6月7日

場所:Hidden Cliff Hotel

参加国:アメリカ・チェコ・スウェーデン・中国・韓国・日本  
6ヶ国 22名

当社に関するWG7(腐食促進試験)の審議について報告する。ConvenerのJohan氏が会議に参加することが出来ず、急遽須賀が会議の進行を務めた。

(1) ISO 11130 Alternate immersion test in salt solution (浸漬サイクル試験)

予め回送されていたDIS案をもとに各国のコメントに対して議論が行われた。議論内容は規格内の表現等の見直しが主となった。このDIS案は承認され、FDIS案をPL(プロジェクトリーダー)の須賀が作成し、回送することとなった。

(2) ISO 16151 Accelerated cyclic tests with exposure to acidified salt spray, “dry” and “wet” conditions (酸性雨サイクル試験)

ISO 14993と統合するべきか否かの議論が行われた。本規格およびISO 14993は制定の際にも議論があり、試験に用いる溶液が酸性と中性で異なることから別規格とした経緯があると須賀から報告があった。議論の結果、統合はせず、現在の規格番号のままとなった。本規格はCD案が承認され、DIS案をPLの須賀が作成し、回送することとなった。

(3) ISO 14993 Accelerated testing involving cyclic exposure to salt mist, “dry” and “wet” conditions (塩水噴霧・乾燥・湿潤の複合サイクル試験)

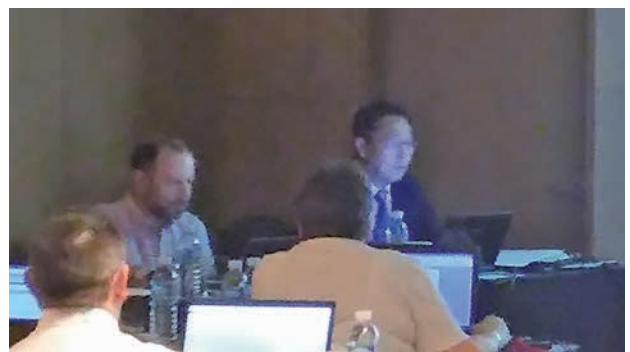
Annex(Informative)に記載されている腐食減量について議論が行われた。本規格は制定から15年以上が経過し、試験に用いる照合試験片の腐食減量値の見直しが必要になっており、変更する予定である。本規格もISO 16151同様にDIS案をPLの須賀が作成し、回送することとなった。

(4) ISO / NP 22479(Sulfur dioxide test in a humid atmosphere (Fixed gas method))

本規格はISO 3231(ISO/TC35/SC9)とISO 6988(ISO/TC107/SC7)の統合規格であり、前回会議にて規格統合の承認を経てISO/TC156/WG7にて制定を目指すことになっている。CD案をPLの須賀が作成し、回送することとなった。



TC156 会議風景



WG7 会議を進行する須賀社長

次回は、2018年5月29日～6月1日にパリにて開催予定。

\*日高・川越工場 開発部 プロジェクトD 係長

## ISO/TC42/WG5(写真/画像の保存性)アメリカ・サンタクララ国際会議

\*喜多英雄

開催日:2017年6月5日

場所: Intel's Mission Campus

参加国: アメリカ・ベルギー・オランダ・スイス・日本 5ヶ国16名

### (1)WG5(物性・保存の試験法)

ISO 18937(イメージング材料—現像済み写真印画紙—屋内光の安定性の測定方法)

・NP ISO 18937 ed 2 (Xenon only) - PL:Matt McGreer

NP投票の結果、7ヶ国の賛成、7ヶ国のabstain、コメント2ヶ国あり。BPT(ブラックパネル温度)、CHT(槽内温度)のSet pointで記載したのは間違いで、日本の提案が受け入れられた。OD0.75は、カーボンブラックか顔料系の黒と記載する。均一性(Uniformity)は、光源だけの問題ではなく、温湿度・オゾンにも関係するので、Annexに移す。7月末までにCDへ進めることとなった。

・PWI ISO 18937 ed 3 (multi-part light)

Part 1 & 2 (General & Xenon)-PL:Matt McGreer

Part 3 (Fluorescence)-PL:須賀

Part 4 (LED)-PL:Henry Wilhelm et al

Part 1,2,3は、現在進行無し。Part 4 LEDについて、実際のLEDが紹介され、現在規格がないため、次回の会議までに複数のLEDでラウンドロビンテストを行うこととなった。どのようにLEDを規定するかで議論した。規格化の為に、分光放射照度分布の経時変化の調査も必要。将来的にISO 18940(イメージング材料 屋内安定性の仕様)にPart4が参照される予定。

次回は、2017年11月13日～16日にワシントンD.C.にて開催予定。

## ASTM D01(塗料)、G03(非金属材料)アメリカ・ボストン国際会議

\*喜多英雄

開催日:2017年6月26日27日

場所: Intel's Mission Campus

参加国: アメリカ・日本 2ヶ国

### (1)D01.27.TG

ASTM D7869 Standard Practice for Xenon Arc Exposure Test with Enhanced Light and Water Exposure for Transportation Coatings

スプレー量の校正について提案あった。自動車会社(FORD)の試験方法BL106でPC、ポリエステルフィルム、塗装フィルム、等を使い、3M、イーストマン、ボーイング、BASF、スガ、Atlas、Q-labでラウンドロビンテストを計画中。

### (2) G03.09 Radiometry

ASTM G173、ASTM G177についてSMARTS2.9.2からSMARTS2.9.5へ改訂されたが、2017年にSMARTS2.9.7が開発された。アルゴリズムが変更され、外部到達光(特にUV域)が変更された。

### (3)G03.03 Simulated and Controlled Environments

カーボン関係は、ASTM G152(サンシャインカーボンアーク)、ASTM G153(紫外線カーボンアーク)について須賀がSR(定期見直し)を確認する。ASTM G151(通則)についてDavid Burns氏から改訂案が提案され定義の修正が行われる。また、均斉度は推奨事項から規定に変更される。

次回は、2018年1月21日～23日にアメリカ、ニューオリンズにて開催予定。

< ISO 規格発行までの手順 >		
予備段階	PWI	Preliminary Work Item (Project)
提案段階	NP	New Proposal for a work item
作成段階	WD	Working Draft
委員会段階	CD	Committee Draft
照会段階	DIS	Draft International Standard
承認段階	FDIS	Final Draft International Standard
発行段階	IS	International Standard

\*校正部 部長